



## 知って、好きになって、楽しむことの大切さ

校長 永山 誉

霜月を迎え、朝夕はかなり寒くなってきました。また、日が短くなり午後5時頃になると薄暗くなってしまいます。まさしく秋の夜長。校庭の木々も色づきはじめ、いよいよ秋本番といったところです。各御家庭におかれましては、この秋、子どもたちとどのようにお過ごしでしょうか。

さて、秋といいますと、気候的にも過ごしやすくなり、子どもたちにとっては、学習にも集中して取り組める季節でもあります。このような中、子どもたちの活動が充実するためには、それぞれの活動において、具体的で明確な目標をもたせ、それに向かって一生懸命に取り組ませることが大切です。しかし、この頃の子どもたちの様子を見て



いますと、一時の「楽しさ」に惑わされ、目標達成のために一生懸命に取り組むことからどこか逃げてしまう傾向にあるのではないかと思うことがあります。本当の「楽しさ」とは何か。また、本当の「楽しさ」とは、どのようなところから生まれるのでしょうか。先日行われました、6年生を対象とした「レッズハートフルサッカー」において、本年度「さいたま市文化賞」を受賞した落合弘キャプテンが、サッカーをするときの心得として「楽しむ」「一生懸命」「思いやり」そして「考えること」が大切であるというお話をされました。特に、この中の「楽しむ」とは、一生懸命に取り組む中で生まれるものであるということも言われました。落合キャプテンの言葉は、サッカーだけでなく、みんなで何かに向かって取り組むときに大切な姿勢であるともいえます。

本校のチャレンジスクールでは論語について取り上げていますが、最近読んだ論語に関する本の中で、子どもたちの物事に取り組む姿勢について参考となる章句がありましたのでここに紹介します。

『論語』の中に、このような章句があります。

しのたま

子曰わく、

「<sup>これ</sup>之<sup>し</sup>を知る者は、<sup>もの</sup>之<sup>これ</sup>を好む者<sup>この</sup>に如かず<sup>もの</sup>。

<sup>これ</sup>之<sup>この</sup>を好む者は、<sup>もの</sup>之<sup>これ</sup>を楽しむ者<sup>たの</sup>に如かず<sup>もの</sup>。」



これは、「あることを知っているだけの人よりは、それを好きになった人の方がすぐれている。さらにそれを好きになった人よりは、楽しんでいる人の方がもっとすぐれている。」と孔子が言ったものです。この章句は、物事を身に付けていくときの極意ともいえる一文です。「知って、好きになって、楽しむ」何でも「楽しむ」まで極めれば素晴らしいことです。知らなかったことやわからなかったことが明らかになると、とても気持ちがよいものです。そして、そのことによりもっと知りたい、もっとうまくなりたいと意欲が喚起され、いつしか夢中になり、好きになる。そして、最後には楽しめる心境になる。子どもたちにも、自分の目標に向かって、或いは自分の夢に向かって、このような経験をたくさん積ませていきたいものです。

早いもので、今年も残り2か月となりました。2学期後半の活動に当たり、「知って、好きになって、楽しむ」というステップが踏めるよう、教職員一同子どもたちの頑張りを支えていきたいと思ひます。